

2013 年度京都芸術デザイン専門学校卒業式祝辞

2014 年 3 月 9 日（日）

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

京都芸術デザイン専門学校の卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。卒業生の学習をあたたく見守りながら支えてこられたご家族の皆さま、心からお祝い申し上げます。学生たちの学習の場を提供していただき、暖かく見守ってくださった多くの企業、団体、自治体関係の方々にも深く感謝いたします。また、学生たちの学習を支えて下さった教職員の皆さんにも心からお礼申し上げます。

在学中、さまざまの行事に皆さんは参加されました。今年の2月8日、9日の土日で、卒業制作展『KIDW+』が、みやこめっせで開催され、多くの人たちに見てもらいました。そこは、またオープンキャンパスの場でもあり、今日、卒業される皆さんの後を追って後輩になる人たちも、たくさん見に来てくれました。

昨年9月には、浴衣デザインコンテストがあり、私の部屋グランプリがあり、イラストコンテストなどがありました。それらでもきっと快心の挑戦をされたことと思います。

「ここは学校ではない。デザインオフィスである」という姿勢を基に、デザイン関連企業を中心とした産業界全体との幅広いネットワークを築き、学生が現場と日常的に向き合える場を豊富に設定し、仕事を通して仕事を覚える学習スタイルを実現して、学生たちは技術だけにとどまらない、プロの姿勢やターゲットを見据えた創造力を身につけています。

これが、今日、卒業される皆さんが在学した京都芸術デザイン専門学校のモットーです。広く学びながら目標を発見し、その後に専門分野を究めるという方針の学園で、皆さんは学習し、それぞれの分野で実践的に活躍してきました。

多くの学校の卒業生たちは、社会に出てはじめて、その厳しさに触れる場合が多いのですが、京都芸術デザイン専門学校は、本当の即戦力を育てることを真剣に考えた結果が、先に述べた、「学校をデザインオフィスにする」ということでありました。このオフィスさながらの環境のもとで、甘えが通じないプロの世界を体感していただいたと思います。

そのような厳しい環境に立ち向かいながら、今日の卒業式を迎えられた皆さんのご努力に、心から敬意をはらいつつ、これからの皆さんの社会における活躍を大いに期待しつつ、また、巣立って行かれる皆さんの、ご健康とご多幸を心から祈りつつ、私のお祝いの言葉といたします。

ご卒業、おめでとうございます。ありがとうございました。